



つくしだより

平成29年12月号

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション 301

TEL/FAX:03-3304-1108

http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/

発行者 眞壁 博美

2017.12.15 第329号

11・16 マル障実現都民集会成功
精神障害者にも心身障害者医療費助
成の実施を求める大きな力!!

都連副会長 植松和光

当日は晴天にも恵まれ、早くから
会場の戸山サンライズには参加者の
姿が見えました。開会時間の午後1
時には都民の皆様で満員。

会場には、NHK、朝日新聞社、
共同通信社、福祉新聞などのマスコ
ミ各社も取材に来ていました。集会
は東京マル障の会加藤真規子氏の開
会挨拶で始まりました。

各界から連帯と激励の言葉!

来賓として、都議会公明党栗林の
り子議員、共産党都議団藤田りよう
子議員、かがやけT.O.k.y.o.上田令
子議員、生活者ネットワーク前都議
会議員小松久子氏、東京都知的障害
者育成会理事立原麻理子氏の各氏か
ら激励と連帯の挨拶をいただきました
。また、当日出席できなかった都
議会自民党政調会からは、電話によ
る励ましの言葉をいただき、都議会
民進党からはメッセージを頂きまし
た。皆様本当に有難うございました。

この後、都連副会長の私から、こ
の間のマル障の取り組みについて報
告をしました。

特別報告と基調講演で改めて精神
障害者の健康と人権が考えられた!

(社福) 巢立ち会理事の長門大介

氏の特別報告は「精神疾患を持つ人
の余命は20年以上短い」でした。
東大研究チームは、「巢立ち会」設立
当時から平成27年末までの24年間
に死亡した利用者を調査しました。
利用者254人のうち、45人が対象
期間中に死亡し

ており、全員が
統合失調症等の
慢性精神疾患を
有していたそう
です。死亡した
利用者の死亡時年齢は平均63歳で、
平均余命より22年短命だったと報告
があり改めてショックをうけました。



基調講演は杏林大学教授の長谷川
利夫氏の「精神障害者の人権とこれか
らの精神保健医療福祉」でした。今年
5月に起きた「ニュージールランド人青年
の措置入院から身体拘束による死亡
を例に現在の病院では身体拘束が処
方と同じようになってしまっている、
外部からのチェックがまったくない、
可視化の必要性があるのでは」と指摘、
精神障害者の基本的な人権を守ること

がとても大切なことと話されました。
マル障実現を求める決議文採択!

集会では、平成30年度予算で実現
するよう求める決



議文をマル障の会
西沢光治氏が提案、
参加者の大きな拍
手で採択されまし
た。集会の最後に
東京つくし会眞壁
会長が力強い閉会挨拶を行い終わ
りました。

早稲田通りを堂々とパレード
沿道からも声援!

集会終了後、会場からJR高田馬
場駅まで約1時間、110名もの参
加によるパレードを行い、沿道の皆
さんに精神障害者のマル障の適用へ
の理解を訴えました。

当日会場でカンパは88000円
集まりました。有難うございました。
これから、東京都の平成30年度
予算の査定が始まります。予算をめ
ぐる動きに注視
していきたくいと
思います。
皆様良いお年を
お迎え下さい。





メンタルケア協議会

第15周年記念シンポジウムに参加して

都連副会長 本田 道子



11月5日(日)の午後から新宿京王プラザホテルにおいて行われました。

はじめは15周年の記念式典、2部に15周年記念シンポジウム、となっていました。

理事長の羽藤先生のご挨拶の中に協議会を立ち上げるにいたった経過についての説明がありました。

それによると東京都からの要請でとにかく相談をうけてくれるところがほしい、という事で体制がまだ整わない段階からの「見切り発車」状態でテンやワンやのスタートであったことがわかりました。現在では

① 相談事業・精神科救急、こころの相談、

女性相談、自殺対策

② 講演会事業・シンポジウム、セミナー、

研修会

③ 調査研究事業・厚生科学研究、自治体

等の委託調査

が主な事業とのこと。

2部のシンポでは危機感をもって注目してゆく必要があるという点での基調講演がありました。

・「精神保健福祉法」についての問題点

・措置入院をめぐる問題

・最近の精神疾患の疾病構成の変化について

休憩のあと事例研究となり東京つくし会

からも副会長の植松さんが参加しましたが医療者と家族とではケースの捉え方が違う、ということがよくわかる検討会でした。

大勢の参加者が熱心に学びあうシンポジウムは盛会のまま幕、となりました



東京都社会福祉協議会の豊島区社会福祉協議会の現地調査に参加して

都連副会長 川崎 洋子



家族の立場からということ、福祉サービス運営適正化委員会の委員をしています。

今回は豊島区社協の地域福祉権利擁護事業(以下、地権事業)が適正に行われているかの調査でした。私は昨年からの委員です。昨年は小金井社協の調査でしたが、初めてのことでほとんど東社協の職員の方がしてくださったのですが、今年は担当委員として報告書の作成もあり、かなり緊張しての参加でした。

地権事業とは、対象者は軽い認知症や知的障害、精神障害によって判断能力が低下している人で、支援内容は主にお金の管理ですが生活支援もしています。費用は月額基本料金1000円です。

各社協にはこの事業のために専門員と生活支援員が配置されています。生活支援員が必要に応じて訪問して相談支援をしたり、生活費の引き出しなど、銀行への同行をしてくれます。

社協の地域性にもよると思いますが、小金井社協では生活保護を受けている精神障害者が多くいましたが、豊島区社協では精神障害者よりも多くは認知症の高齢者が利用しています。

この事業は障害者への周知が少なく、高齢の利用者が多いのは、介護保険がらみでケアマネジャーからの情報があるのかなと感じました。お金の使い方は、精神障害者の中には不適切な使い方で行っている人も少なくないと思います。豊島区社協には、家族会への周知をお願いしましたが、まだまだこの事業を知らない当事者、家族は多いです。私たち家族会も学習会を開き、親亡きあとのお金の管理の支援者をどうしたらいいか、考える必要がありますね。



「僕は世界一明るい視覚障害者」

都連副会長 松沢 勝

成澤俊輔氏 NPO法人FDAL理事長による講演会の要約をお伝えします。

講演会のテーマは「企業の業績につながる障害者雇用」と企業との架け橋」で、去る平成29年9月29日（金）午後二時～四時。

練馬区役所本庁舎多目的会議室で開催。主催は、公益社団法人 練馬区障害者就労促進協会（レインボーワーク）共催 練馬区。

同氏は、表題のキャッチコピーを掲げられているが、現在32才。3才で網膜色素変性症という進行性難病に罹り現在の視力は光を若干感じられる程度で、このハンディを、バネに大学在籍7年間、経営コンサルティング会社で10年以上障害者雇用の勤務を通じて獲得したノウハウ、人脈を生かして障害者雇用の変革を目指すNPO法人FDAL（Future Dream Achievement）を設立。障害者総合支援法による就労移行支援と就労継続支援B型事業を展開中。現状は、全国の障害者の離職率は3年で70%に達するが、成澤氏がコンサルティングする約50社では、この3年間離職者は一割以下。日々50人近い障害者や難病を抱える就労困難者達と企業との双方のヒアリングを欠かさない。2017年7月青年版国民栄誉賞（日本青年会議所主催）と言われる人間力大賞にて経済産業大臣奨励賞と全国知事会会長奨励賞を受賞。

講演の初め、開口一番、「ライターとストローの共通点は？」で始まる。ライターは片手しか使えない障害者のために考えられた道具で、ストローは首が据わらない障害者がドリンクを飲むための道具と言われているそうです。ライターやストローを見て白い杖や車椅子のように支援を受けていると思われませんか？ライターやストローのように当たり前に、どんな人だって働ける世の中にしたいと思ってます。

皆さんに伝えたいことが一つあります。それは、障碍のある人たちへの言葉で一言「大丈夫だよ」と後押しをすること。自身自身が昔言っただけだった一言です。

「オープンダイアログ」の講演会に参加して

都連理事 中住孝典

11月26日（日）青梅市役所で青梅家族会「ほっとスマイル」主催の「オープンダイアログ」の講演会が開催されました。参加者は約40名で西多摩地区以外の多摩地区（狛江、小平、八王子、府中など）の家族会の方々も参加してください大変うれしく感じました。講師は日本での治療の啓発・普及に取り組まれている板橋・みどりの杜クリニックの森川すいめい先生と医療スタッフ（看護師とPSW）3名の方によるものでした。

「オープンダイアログ」とは1980年代からフィンランドの西ラップランドにあるケロ

ブダス病院で行われている統合失調症の人に對する対話を重視した治療法です。この治療的取り組みは「開かれた対話」をすることでその人の回復を導くというものです。その後の再発率も低く、多くのケースでは薬物療法は用いられないし、もしくは最低限であるといえます。オープンダイアログの特徴は本人の治療に關しては決して本人を抜きにして治療を進めず、本人、家族、医療関係者、または本人の支援に必要な関係者が本人がどんなことに困っているのかなどを聞いたりしながら対話を中心に進めていくものです。ミーティングの途中で本人に對する治療方針や感じたことなどを専門家スタッフが相談する時も、その場面を本人に見せていくというもの、これをリフレクティングといい、これにより本人は自分を客観視できるようになりそのような対話の積み重ねが回復につながるというものです。グループで対話実践をしました。が少々わかりづらさもありました。何度か実践学習を積む必要があります。私たちは対話が孤立した精神状態の安定や病気の回復に役立つということを日常的な関わりを通して実感することがしばしばあります。森川先生は対等性を大事にしています。ともしれば患者の権利や気持ち軽視される今の精神医療の在り方を変革するためにも「オープンダイアログ」または「オープンダイアログ性」の浸透に家族会も協力していきたいと感じました。

東京アビリンピック

都連副会長

本田 道子

「第16回東京障害者技能競技大会」

といひ来年の2月18日(日)に小平市にある

「職業能力開発総合大学校」で実施されます。

- ① パソコンを使用する4競技のワープロ
- ② ホームページ
- ③ 計算
- ④ DTP
- ⑤ オフィスアシスタント
- ⑥ ビルクリーニング
- ⑦ 喫茶サービスの7種目があります。

それぞれの技能についてアビリンピックのように競うのです。それぞれに金・銀・銅メダルもあり金メダリストは全国大会へも参加します。来年は沖縄です。

精神の障がい者にパソコンの競技は向いていそうです。すぐに就労には結びつかなくとも自信にはなりません。

東京都が実施している事業ですので一度見学なさいませんか。

社会資源のひとつとして「知っておくこと」はムダにはならない、と思います。



東京つくし会のホームページをぜひご利用ください。家族会や関係団体の講演会のお知らせやイベントなど掲載いたしますので、ご連絡ください。またご覧になったご意見、ご感想をお待ちしています。

<http://ttsukushi.sakura.ne.jp>

☆賛助会費☆

林 茂樹様

2000円

ありがとうございます。

☆講演会のお知らせ☆

☆1月13日(土) イキイキ働く当事者たち講師 やどかりの里 常務理事 増田一世氏
会場 新宿区立障害者福祉センター
主催 新宿フレンズ ☎03-3987-9788

☆1月17日(水) 精神障がい者が働きけるために、障がい者雇用の現状と今後について、(予約不要)

講師 障がい者就業生活支援センター
タラントセンター長 野路 和之氏
主催 わかくさ家族の会 ☎090-5422-0942
会場 八王子市クリエイティブホール11階

編集後記

先日のワークショップの折、精神科医が聴講生に問題提起した「アルプスの少女ハイジ」の名場面(歩けない、歩けないと甘えるクララに「クララの馬鹿、意気地なし! 甘えん坊! 足はちゃんと治っているわ、もう知らない!」と怒って一人で駆け出して行ってしまった。途方にくれて一人残されたクララは一歩ずつ歩き始めたというあらすじ)、クララはビタミンD不足という説もあるが最近では幼少期の心の傷が原因の転換性障害とも言われています。私が現在、家族会で相談を担当している相談者の多くが抱えている問題が先のテーマと類似している。相談者は自身の悩みから対立往生し、そこから抜け出せないでいる。或る時「こういう境遇は貴女だけではありませんよ、我々も事情は違っても辛い過去を背負ってきています。これからは貴女の人生は貴女のもの、尊い人生を切り開いていきましようね」と愛情を込めて進言しました。思い切って相談者に言い切った心の清々しさ、それこそ知識ではなく体が教えてくれたものでした。クララに対してとったハイジの対応は、それこそ傾聴だけでは心の成長はできませんという見本です。

都連理事 小澤 輝江

